善教寺
ZENKYO-JI

寺報 縁

2022年（令和４年）
No. 319
６月号
Zenkyo-ji monthly Communications Paper
En ［えん］

高名なお坊さん（その６）

伝教大師 最澄

最澄 国宝「聖徳太子及び天台高僧像」

天台宗の開祖として有名な最澄。密教とも深い関わりがある最澄は、日本における仏教に多大な影響を与えた人物でもある。

最澄は、767年に近江国（現在の滋賀県）の生源寺付近で生まれた。子どもに恵まれなかった両親が、比叡山の神様にお願いして授かったのが最澄である。誕生後、最澄は「広野（ひろの）」と名付けられた。

最澄、19歳のときに東大寺で正式な僧になる。それから数年、比叡山にこもって修行するようになり「願文（がんもん）」を記した。願文とは、修行などをする際の決意や、神様に対する願いなどを記す文章のこと。

最澄が記した願文には、「仏になるための教えを体解するまで山を下りない」といった、強い決意が記されていた。

伝教大師（最澄）坐像

比叡山で修業を続けていた最澄は、797年に桓武天皇の「内供奉」に選ばれた。内供奉とは、天皇に仕えてその安寧を祈り、看病をしたり、僧侶の集まりの時にお経を読んだりする役職のこと。その後、「還学生」に選ばれ、804年に「遣唐使」として中国に派遣された。

最澄は中国で天台教学を学んだ他、禅の教えや密教の伝法を受け、数か月後に日本に帰国した。

最新の密教を持ち帰った最澄は、806年１月26日、悲願であった天台宗が開宗される。その後も最澄は、人々に天台宗の教えを説き続けた。

住職レター

新緑の美しい季節となりました。お寺の周りの景色が美しく、田植えが終わった田んぼを眺めていると心が落ち着き、山々の木は芽吹き、元気を貰えるような気がします。

法事にお参りして、「良い季節ですね～」と申しますと、そうではないご様子。「草刈りが大変ですけんの～」と、愚痴をこぼされていました。田植えの合間に草刈りをして、また次の場所を草刈り、そしてまた最初に刈った草をまた再度の草刈り。私が、「やる事があるのは、有り難いのですよ」と申しまして、困惑気味に受け取られる始末。

さて話は変わり、法事の時、ギターを趣味で弾かれる方に出会いました。左手の指の先を見せて貰ったのですが、そこは硬くなっていらっしゃいました。当然、最初は、柔らかい指の先だったのでしょう。ギターの絃を押さえるために、指の先が硬くなったとのこと。痛い思いをして、ギターが上手く弾けるようになったと、笑顔で話して下さいました。

僧侶になる修行をした得度の時、正座に慣れずに、足が痛くて、痛みで失神するとは、このような感じか？と思ったものです。この痛みがあって、成長が出来たのでしょうね。

最近、何かの痛みを味わっているかな？と、ふと思いました。痛みが無いということは、成長できていない証拠か・・・。

成長する為に、痛みを探してみます。

発行日：2022年5月25日（毎月25日発行）発行所：浄土真宗本願寺派 善教寺
〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248